

「食卓から牛乳が消える?!」



自給率100%の牛乳を守るためには?



「日本から酪農・畜産の灯を消すな」

今年の3月、酪農・畜産への支援策を求めるオンライン署名約8万1000人分が、農水省に提出されました。

ウクライナ危機が世界に影響を及ぼし、日本でもエサ代が高騰、電気代の値上げも加わって、和牛や乳牛を育てる農家の経営がひっ迫。廃業する農家が増加、すぐにでも公的な支援が必要です。



まさか、いつでもどこでも買える牛乳がなくなるわけじゃないじゃん…と思ってませんか?

現在の日本の仕組みでは、生産者乳価の引き上げは、そのまま牛乳・乳製品の値上げに直結します。物価高に苦しむ消費者にとって打撃です。売上低下につながりかねません。

このままでは、スーパーの棚から国産牛乳がなくなり、食卓や学校給食でも牛乳が消えてしまうかもしれません!



★日本の酪農家の現状について考えてみよう

●生乳 1 kg搾るごとに約30円の赤字

↓
《政府》飲用乳の取引価格を昨年11月に10円、今年8月さらに10円引き上げる(トータル20円)

↓
それでもまだ10円の赤字

この10円を全酪農家に補填するには、750億円が必要(トータル年間1頭あたり10万円補償)

↓
《政府》農水予算は2.3兆円しかないので難しい
生産者を償う価格と消費者が買える価格とのギャップを補てんして両者を助けるのが政治の役割では?

★欧米の酪農を守る制度づくりを見てみよう



●カナダ・フランス

コスト上昇を自動的に価格に上乗せする制度を検討。消費価格にも影響はあるが、フランスでは、物価上昇(2%以上)に合わせて労働者賃金も自動的に引き上げられる仕組み。

●アメリカ

牛乳を守る=国民の命を守る。国として電気・ガスと同様に酪農を公益事業として扱っている。絶対に海外に供給依存しない姿勢。「乳代一エサ代」に補償。下回ったら政府から補てん発動

ちなみに…

政府が爆買いしようとしている戦闘機F35の購入費は6.6兆円(147機)だとか…!?



さらに、防衛費を5年でなんと4.3兆円にするそうです。これどう思いますか?

日本の食料自給率は38%。ちなみに牛肉の食料国産率は47%、国産飼料で生産された牛肉にいたっては、たったの13%です。

飼料高騰の中、政府が昨年行った施策は、なんと今年の9月までに乳牛を処分すれば、1頭15万円を給付するというものでした。



酪農家が廃業に追い込まれたら…国産牛乳は消え、輸入100%になります。

どんなエサを食べ、どんな製造過程で出来上がっているのか…家庭や学校給食で安心して飲むことができますか? 消費者としてどう行動したらよいのでしょうか?

私たち、新日本婦人の会では、畜産農家の危機=私たちの食の危機ととらえ、次のような取り組みをしています。



新日本婦人の会では こんな取り組みをしています



7/3付「農民」より

「おいしくて安全・安心なものをわが家の食卓に」
「おいしいものをこれからも食べ続けていきたい」

だから、日本の農業と食料をまもろうと、産直運動を広げています。

- ・生産者との交流
- ・親子で参加する農業体験会（田植えや稲刈り、じゃがいも掘り、ブルーベリー狩りなど）
- ・安全・安心な食材をつかった料理小組（サークル）
- ・国産大豆でみそづくり
- ・食べて学んで美しく「産直カフェ」 など



畜産農家を訪問して 見て・感じて・食べて

宮崎 新婦人と農民連共催で交流会



エサやり体験中の新婦人

「出産前夜の乳牛」
の中心記事として、
相模原市にある畜産農家
を訪問し、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

「出産前夜の乳牛」
の中心記事として、
相模原市にある畜産農家
を訪問し、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

宮崎県は、乳牛の産肉率
が低く、乳の生産量も
少ない。しかし、近年は
消費者の関心が高まり、
安全・安心な畜産物の
需要が増えている。この
背景を踏まえ、新日本婦
人の会と農民連が共催し
た交流会を開催した。交
流会では、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

「出産前夜の乳牛」
の中心記事として、
相模原市にある畜産農家
を訪問し、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

宮崎県は、乳牛の産肉率
が低く、乳の生産量も
少ない。しかし、近年は
消費者の関心が高まり、
安全・安心な畜産物の
需要が増えている。この
背景を踏まえ、新日本婦
人の会と農民連が共催し
た交流会を開催した。交
流会では、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

8/7付「農民」より

新婦人が食と農の学習会

静岡



西山さんの牧場で大きくなったバブリー

西山さんのお話を聞き、
バブリーの成長の様子も
見て学びました。

アグロエコノミー

有機農業30年 中道達哉さん講師に

7月23日、
静岡県の新日本婦人の会が、
濱北支部が「アグロエ
コノミー宣言（案）パ
ン」を30部購入し、会
員に普及しています。今
回はその内容を深めたい
と声がかかり取り組ま
れました。

はじめに事務局から、
パンを活用し、アグロ
エコノミーが生まれたこ
とを説明し、日本の食と農
のゆがみがどのように作
られているかを説明し、
中道達哉さん講師に行
いました。

濱北支部は「アグロエ
コノミー宣言（案）パ
ン」を30部購入し、会
員に普及しています。今
回はその内容を深めたい
と声がかかり取り組ま
れました。

「周りの農家は大規模
化で余裕がなく、昨道も除
草剤をかける、これでオ
タマジャクシもドジョウ
も減った」「農業を使わ
なければ生計が豊かに
なる。特に田んぼは豊稔
エビ、カフトエビ、カイ
エビ、コウモシなどが
見られる」など有機農業
の実践の一端を紹介しま
した。

「息子には農業を継げ
ると言ったことはない
が、孫には農業の良さ
を」と伝えている。これ
からの世の中どうなるか
わからず、地に足を付け
たいと語る。

長 山本博之
（静岡県農産物振興事務局）

7/17付「農民」より

厚岸町農協と新婦人 スーパー前でスタンディング



北海道・厚岸
厚岸町農協と新婦人など
スーパー前でスタンディング
が、消費者の関心が高まり、
安全・安心な畜産物の
需要が増えている。この
背景を踏まえ、新日本婦
人の会と農民連が共催し
た交流会を開催した。交
流会では、乳牛の飼育
や搾乳の様子を体験し、
新鮮な牛乳を味わった。
また、出産したばかりの
乳牛の世話の様子も見て
学びました。

マイナカードの強制NO！ 酪農・畜産の灯を消すな！

「食卓から牛乳が消える?!」この問題は、知れば知るほど、世の中の事とつながっていきます。地球温暖化と戦争を止められるのは人間だけです。
「つくる人、食べる人」日本の食の未来は、今の私たち消費者の行動にかかっています。さあ、一緒に取り組んでいきませんか？